

20

9

8

7

6

10

9

8

7

6

5

4

3

2

1

0

5

713
6549
9

横山成教
小川重喬
渡邊義雄

擬律必携

四編

甲



橫山成教
小川重喬

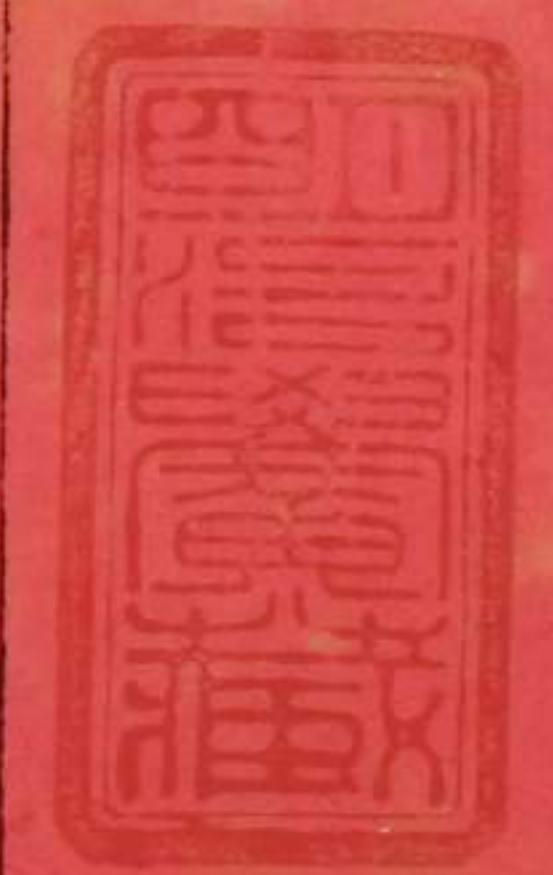
渡邊義雄

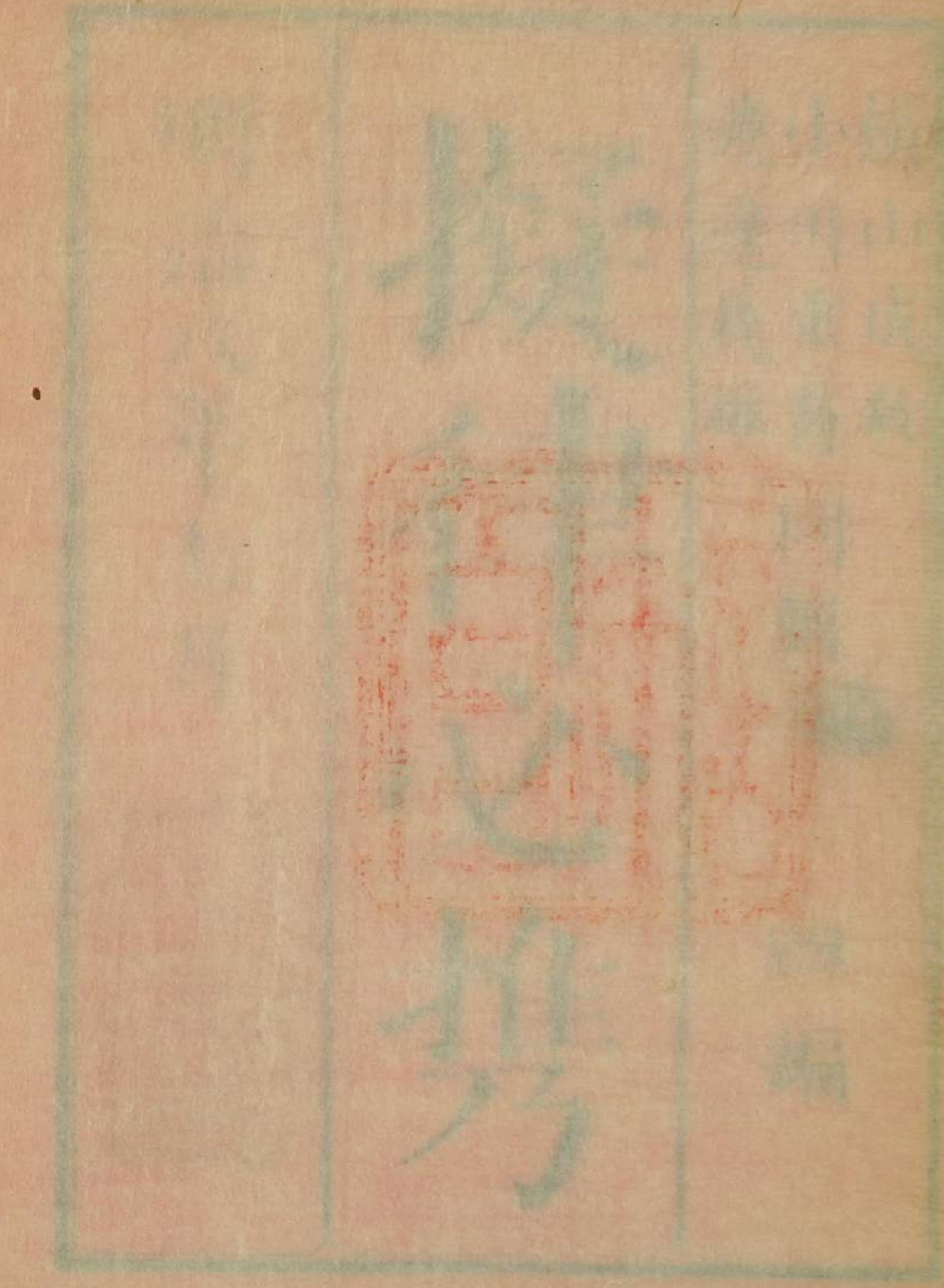
同輯

四編

擬律必携

明治八年七月





門ウ13
號6549
卷9



擬律

必携四編上卷

横山成教
小川重喬同輯

渡邊義雄

雜犯律

拆毀掲榜場新律綱領

凡掲榜場ヲ拆毀シ及ヒ板榜ヲ毀スル者ハ徒三年

販賣鴉片烟新律綱領

凡鴉片烟ヲ販賣シテ利ヲ圖ル者首ハ斬後ハ流

早稻田大學圖書館
昭27.3.1
藏書

三等

若レ人ヲ引誘レテ吸食セレムル者ハ絞役及ヒ
情ヲ知リ房屋ヲ給スル者ハ流三等引誘セラレ
テ吸食スル者ハ徒一年

若レ販買シテ未タ售賣セザル者首ハ流三等役
ハ徒三年買食スル者ハ徒二年半並ニ鴉片烟ハ
官ニ没入ス

若レ官吏知テ舉セザル者ハ同罪罪流三等ニ止
ル財ヲ受ル者ハ枉法ヲ以テ重ニ後テ論ス

賭博

凡財物ヲ賭レ博戯ヲ為ス者ハ皆杖八十賭場人
財物ハ官ニ入ル其賭房ヲ開張スル人ハ其列ニ
與ラスト雖モ同罪飲食ヲ賭スル者ハ論ズル
勿レ
若レ産業無クレテ常ニ腰刀ヲ挾帶レ無賴ノ徒
ヲ招結レ賭場ヲ開張レ四隣ニ横行スル者ハ皆
流一等

堺縣同七年二月七日

雞ヲ鬪ハシメ或ハ碁碁ヲナスニ財物ヲ賭
ル者並ニ賭博ヲ以テ論シ可然哉

指令

同ノ通

岐阜縣同二十七年四月

世ニ偽塞ヲ用ヒ博奕ヲ假リ手術ヲ以テ人ノ巨財ヲ圖取ル其實局騙ニ類スル者有之尋常賭博ヲ以テ論シ候テハ懲役ノ法難立トモ存候ニ付賄二計へ賭博律ヨリ重キモノハ重キニ後ヒ詐欺取財律ニ依リテ論シ可申次ニ候ヘ共然ル時ハ財ヲ失フ者ノ處分賄ニ依リ一方賭博律ニ當ル節ハ罪ヲ免

レズ詐欺取財律ニ當ル節ハ無科ニ歸レ候テハ律法區々ニ相成可申且其財ヲ失フト言フ者亦他ノ局騙ト同一ニハ典之候ヘハ一般賭博ニ見做給刑可仕候哉

指令

同ノ通賭博律ヲ以テ論ス
賭博條例改定律例

第二百六十九條 凡賭博三犯以上ハ懲役一年

高知縣同二十七年二月
十九日

土佐郡水通町商渡邊岩藏儀賭博三犯ノ節

懲役一年可申付所初度ノ罪科押隠ヨリ再犯ヲ以テ論レ杖九十申付候ニ付一年三百六十五日ノ内九十日ヲ除キ殘リ日數二百七十五日懲役可申付哉

指令

改定律例第二百六十九條 賭博三犯懲役一年ノ所再犯ノ時初犯ヲ包藏スルニ依リ杖八十二處セラレ加等十日ノ不足ヲ生レ三犯ノ時更ニ初犯ヲ包藏スルニ依リ杖九十二處セラレシヲ以テ本罪一年ノ内九十

日ヲ除キ剩ル二百七十五日ヘ前十日ノ不足ヲ加ヘ

懲役二百八十五日 渡邊 岩藏

第二百七十條 凡賭場現在ノ財物ハ官ニ入ルト雖モ其田宅等不動産ニ係ル者ハ原主ニ還附レ官ニ入ル、ノ限ニ在ラス

第二百七十一條 凡博戲ニ用フル骰子骨牌ヲ賣ル者ハ賭博者ト同罪再犯ハ一等ヲ加ヘ三犯以上ハ懲役一年

第二百七十二條 凡賭博ノ列ニ與ラスト雖モ

母錢ヲ借レ息ヲ取ル者ハ犯人ト同罪

嘱託公事ノ新律綱領

凡法令ヲ曲ゲシトヲ欲ニ公事ヲ嘱託スル者ハ己レノ為ニレ人ノ為ニスルトヲ論セス皆四十五當談ノ官吏聽從スル者ハ同罪聽從セサル者ハ坐セス若レ事已ニ施行スル者ハ杖九十枉ル所罪重キ者官吏ハ故出入人罪律ヲ以テ論ス若レ他人及ヒ親屬ノ為ニ嘱託レテ枉ル所罪笞四十ヨリ重キ者ハ當談官吏ノ罪ニ三等ヲ減ヘ自己ノ事ヲ嘱託スル者ハ坐スヘキ本罪ニ一等ヲ加

フ
若レ法ヲ曲ケ賊ヲ受ル者ハ賊ニ計ヘ枉法ヲ以テ論ス

失火新律綱領

凡火ヲ失レテ自己ノ宅舎ヲ焼ク者ハ笞二十人ノ宅舎ニ延焼スル者ハ笞四十罪止ダ火ヲ失スル人ヲ坐ス若レ太廟及ヒ宮闈内ニ於テ火ヲ失スル者ハ流三等山陵ノ兆域内ハ徒一年公廨及ヒ倉庫内ハ杖一百往守ノ人因テ財物ヲ侵欺スル者ハ賊ニ計ヘ盜自盜ヲ以テ論ス其外ニ在

リ火ヲ失レテ延焼スル者ハ各三等ヲ減ス
其宮殿及ヒ倉庫フ守備レ若クハ囚^{レバ}掌ル者火
ノ起^{オテ}ルヲ見テハ所^{ヨシ}守^{レバ}離^{ハセバ}ル、ヲ^{アリ}フ得ス^{タガ}違^{ハセバ}フ者
ハ杖七十

大^オ今^タ縣^同六十年七月

火ヲ失レテ自己ノ宅^舍ヨリ人ノ廄^{ヤナ}納屋等
ニ延焼スル者其居宅ニハ延焼セスト雖モ
人ノ宅ニ延焼スルト同ク懲役四十日ニ論

ス可キ哉

火ヲ失レテ人ノ宅舍^フ焼ク者モ亦人ノ宅

舎ニ延焼スルヲ以テ論レ懲役四十日ニ處
ス可キ哉

指令

第一二條 同ノ通

白川縣同七年二月

火^コニ失火人アリ^{カナ}テ一人相暮^{カニ}居リ一日他
出スルニ付^リ爐中^キノ火ヲ埋^メトメ戸^フ閉^シ手置候
處折^リ節^{ガウカ}強風^ヲニテ右ノ戸^フ吹倒^シレ爐中ノ火
ヲ^フ藁壁^ヲニ吹付タルヨリ遂ニ一家焼失ニ及
フ石^ハ等閑^{アラザリ}ア以テ論レ難ク情状甚^{ビシ}タ^リ憫^リ諒^ム

スヘキアリト雖モ禦境強風ノ折戸打レメ
無念ノ然ラシムル所ナレハ無斟酌本律ニ
依リ可處斷哉

指令

火ノ起ルハ強風ノ然ラシムル所ト雖モ獨
居ノ者他行スルニ爐中ノ火ニ心ヲ用ルノ
疎ナルヲ免レス無念ト謂フヘシ失火律ヲ
以テ罪ヲ科ス

京都裁判所同二十八年二月

日誌第七十二号火ヲ失シ宅舎ノ屋上ニ
モ燐

焼セス舍納ニテ消苗候者云々開拓使ヨリ
問合セハ御回答ニ火ヲ失シ焼燐ニ至ラザ
ル者ハ無罪ト有之右ハ自己ノ宅舎ヲ焼ク
者ニ有之候所人ノ宅舎ヲ焼キ焼燐ニ至ラ
サルハ本罪ニ一等ヲ減スルカ將タ亦無罪
ニテ可然哉

指令

燒燐ニ至ラザルハ懲役二十日贖ヲ聽ス

新潟縣同罪案七年四月五日

越後國蒲原郡赤塚村農石黒平次郎長女力

ノ供キヨ私儀本年三月廿一日夜ヤ食ヲ炊キ火
ノ取締ア惡レカリレヤ其夜二時頃出火ニ及
フ然ルニ折惡ア父平次郎苗守中ニ付直タチニ
祖父ノ寢所ニ驅ツケ戸外ハ連出セレ所同人
神棚ヲ取出サン逆私ヨテノ引畠ルヲ聞カス強キ
テ屋内ヘ驅入シ所火煙燭シガニ相成遂ニ燒サ
死致シ候ス

指令

自家失火ノ際サ祖父ノ戸外ニ連出スニ祖父
神棚ヲ取出サン為メ阻當オレト當スルヲ肯カシセスシ

テ屋内ヲ駆入リ遂ニ燒死ニ至ルモ燒死ハ
祖父ノ自ラ取ルヲ以テ唯タ自家燒燬シカノ罪
ヲ責セメ失火條火ヒ失レシテ自己シノ宅舎ヲ燒
ク者懲役二十日ノ處婦女タルヲ以テ例レッニ
依リ取贖シムヲ聽ス

収贖金五十錢

夫火筑摩縣同七年四月九日

凡ワ寺職シヨウノ者火ヲ失レ其寺ヲ燒キ或ハ他
宅舎ヲ延焼シカスル者如何シカ處斷可然哉

僧侶火ヲ失レテ寺院ヲ焼ク者自己ノ宅舎
ヲ焼クニ一等ヲ加フ他ノ宅舎ヲ延焼スル
者又一等ヲ加フ

失火條例 改定律例

第二百七十三條 凡太廟及ヒ山陵内ニ於テ火
ヲ失スル者ハ律ニ依リ罪ヲ科スルノ外官幣
國幣大社ハ山陵ト同シノ論シ中社ハ懲役百
日小社ハ懲役九十日府縣社ハ懲役七十日鄉
社ハ懲役六十日延燒スル者ハ各本罪ニ三等
ヲ減ス減レテ人ノ宅舎ヲ延燒スルヨリ輕フ

若クハ等キハ並ニ一等ヲ加フ

京都裁判所同月五年二

改定律例第二百七十三條前畧郷社ハ懲役
六十日延燒スル者云々トアルニ依リ其村
社ヲ焼ク者モ仍ホ郷社ヲ焼クヲ以テ論ス
可キ哉將ク村社ハ官社ニ列セサルヲ以テ
人ノ宅舎ヲ焼クヲ以テ論ス可キ哉
指令其隣味良樂ノ典神長井ノ傳

郷社ヲ焼クト同ク論ス

疏摩縣同月四年三

失火條例中官幣國幣大社以下府縣鄉社ニ至ル迄凡火ヲ失レテ之ヲ燒キシ者ハ懲役若干日ト其例相見候ヘ共特リ村社ノ例無之若レ之ヲ燒キ之ヲ延焼スル者罪如何其官幣國幣大社以下府縣鄉村社中各攝社末社ト唱フル神祠アリ之ヲ燒キ之ヲ延焼スル者ハ罪如何右ハ御省日誌後第二号鳥取縣ヨリ村社失火延焼トモ人民宅舎ト同ク論レ可然哉云々相伺候處兩條共人ノ宅舎ト同ク論ストノ御指令ニ候ヘハ人ノ宅

ヘ延焼スルモノト同ク懲役四十日相當ニ可有之候ヘ共鄉社以上ハ延焼スル者本罪減等ノ例有之村社攝末社等ハ失火延焼ノ差等無之權衡如何可有之哉

指令

第一條 同郷社ノ例ニ賄シテ論スヘレ
第二條 同官幣大社ノ境内ニ在ル攝社末社ニ失火スル者ハ小社ニ準レテ一等ヲ減レ
官幣國幣中小社ノ攝社末社ハ府縣社ニ準シテ一等ヲ減ス其神器包藏スル倉庫ヲ燒

ク者亦同レ延焼スル者ハ各三等ヲ減ス減
シテ人ノ宅舎ヲ延焼スルヨリ輕キ者ハ並
ニ一等ヲ加フ府縣郷村社ノ根末社ハ人民
宅舎ト同ク論ス

第二百七十四條 凡税居人火ヲ失シテ其家ヲ
焼ク者ハ自己宅舎ヲ焼クニ一等ヲ加フ
疏摩縣同七年三月二十四日

凡官私ヲ不論一時或ハ平常其主ニアラス
レテ空屋ヲ監守シ火ヲ失スル者ハ處分上
如何ニ相心得可然哉又ハ官私税居人ニ一

時雇ハレ其空屋ヲ監守シ火ヲ失スル者仍
同亦税居人ト看做シ處分可然哉

昔ハ指令書单大金サニシテ入出金イ
入官私ノ空屋トハ公僻倉庫及ヒ宅舎ノ類ニ
谷テ其住守或ハ本人他行等ノ節代守スル者
ニカ繁シテ然ラハ代守スル者公僻倉庫ハ本
部律ニ依リ宅舎ニ係ルハ自己ノ宅舎ヲ焼ク
ニ一等ヲ加フ其税居人ニ雇ベテ火ヲ失
セスル者ハ例第二百七十四條ニ依ルヘシ
改定律例第二百七十五條改正明治六年八
月十二日大

政官二百九十九号御布告

第二百七十五條 凡火ヲ失シテ人ヲ燒死ニ致ス者ハ死屍ノ多寡ヲ論セス一等ヲ加フ其同居一等親ノ尊長ヲ燒死ニ致ス者ハ懲役百日二等親以下ノ尊長ハ各一等ヲ遞減シ卑幼ハ各等親ニ照シ尊長ニ三等ヲ減ス減シテ罪致人焼死律ヨリ輕キ者ハ減セス其各居ニ係ル者ハ等親ノ尊卑ヲ論セス並ニ致一人焼死ト罪同

京都裁判所同十七年一月八日

司法省日誌第三十号印旛裁判所同第三條
雇人火ヲ失シテ家長ノ家ヲ燒ク者云々御指令雇人火ヲ失シテ家長ノ宅舎ヲ燒ク者ハ自己ノ宅舎ヲ燒ク者ヲ以テ論ス雇人別居ニ係ル者ハ自己ノ宅舎ヲ燒クニ一等ヲ加フト之アリ候處其同居及ヒ別居ノ雇人火ヲ失シテ家長ヲ燒死ニ致ス者ハ改定律例第二百七十五條ニ照シ各一等ヲ加ヘ處斷可致哉將タ其燒死人雇主ニ係ルヲ以テ同居別居各加等ノ區別モ可有レ之哉

指令

同居別居ノ分チナク改定律例第二百七十

五條ニ照レテ論レ贖^{ヨシ}ヲ聽ス

滋賀縣同^{二十七年三月}

近江國高島郡岡村

農亡彦右衛門二女

足立

ナツ

右ハ罪案^{ヤシメ}畧ノ通火ヲ失レ家長ノ女ヲ焼死ニ致ス律ニ正條無レ之先般妻并雇人火ヲ失レ同居候夫及ヒ家長ヲ焼死ニ致スハ加等無^レ之候哉ト相伺候處^{ヤガム}ヲ以テ伺フ可レト御惜^レアリ囚^{ヨリ}テ此段相伺候也

指令

火ヲ失^レテ家長ノ女ヲ焼死ニ致ス者改定律例第二百七十五條其火ヲ失シテ人ヲ燒死ニ致ス者ハ一等ヲ加スト云ヲ以テ論

収贖金七十五錢

足立ナツ

兵庫裁判所同^{七年四月}

改定律例第二百七十五條ニ失火レテ人ヲ燒死ニ致ス云々一等ヲ加スト有^レ之候テ假令ハ消防人足及^レ官吏又ハ平民等ニテモ

加勢ノ外人其場所ニ到リ消防中焼死ニ至ル者有之時其本犯ハ無論加等候テ可然哉但失火場ヘ外ヨリ来リ救防スル者ハ焼死スルモ加等セス自家ニ在テ逃レ得ス焼死スル者アレハ加等スル等ノ區別有之候哉

改定律例第二百七十五條ノ等親ヲ燒死ニ致スト云ハ失火者自ラ其等親ヲ燒死セシムルヲ云ニ似タリ譬へハ甲ノ家失火レモノ家ニ延焼スルキ乙其祖父母父母等尊属

ノ親ヲ燒死ニ致スモ無罪ニ候哉將タ其奉養ノ欠ルヲ責メ仍亦二百七十五條ニ依リ處斷スヘキ哉

指令

第一條 消防人足及官吏等其場ニ來リ誤テ燒死スル者アリ其本犯ハ加等ノ限ニ非少ス但書自家ニ在テ逃レ得ス燒死スル者久ノ為第二百七十五條ヲ設ク

第二條 等親ヲ燒死ニ致ス條亦止夕失火本犯ノ為ニ設ク乙等親ヲ燒死スル如キハ

此限ニアラス其情ニ依テ別論スヘシ
第二百七十六條 凡火ヲ失シテ人ノ山林裸草
及ヒ空間房屋若クハ田場積聚物ヲ延焼ス
ル者ハ官私ヲ各タス人ノ宅舎ニ延焼スルニ
一等ヲ減ス

新潟縣同月十九日
村社ノ境内ニ於テ枯枝ヲ燃シ暖ヲ取
リ誤テ火ヲ失シ境内ノ樹木ヲ焼ク者如何
處斷スヘキ哉

指令

改定律例第二百七十六條ニ照レ處斷スヘ
第二百七十七條 凡盜犯火ヲ用ヒテ門闕戸
口燒燬シ及ヒ燭炬ヲ持レ期セスレテ失火ニ
致ス者ハ懲役三年若レ盜罪重キ者八重キニ
從テ論ス

放火新律綱領凡火ヲ失シテ人ノ山林裸草
凡火ヲ放テ敵サラニ公廨倉庫及ヒ民舎ヲ焼ク
者ハ皆斬未タ燒燬ニ至ラサル者ハ流三等
第二放火條例 改定律例

第二百七十條 凡火ヲ放テ人ノ空間^{アキヤ}房屋及ヒ田場^{ジヨウ}積^{ヨリ}破^ルノ物ヲ焼ク者ハ懲役七年未^タ燒燬ニ至ラサル者ハ懲役三年

第二百七十九條 凡火ヲ放テ敵^{ヨロシ}ニ自己ノ房屋ヲ燒ク者ハ懲役九十日未^タ燒燬ニ至ラサル者ハ一等ヲ減ス若シ期セスレバ解倉庫及ヒ民舍ヲ延焼スル者ハ懲役一年半因テ財ヲ盜ム者ハ懲役終身

第二百八十條 凡火ヲ放テ人ノ空間房屋ヲ燒キ期セスレテ人ノ宅舍ニ延焼スル者ハ懲役

十年

第二百八十一條 凡火ヲ放テ人ノ宅舍ヲ燒キ未^タ燒燬ニ至ラサル者律ニ照ニ懲役十年ニ處スル外若シ雇人等家長ノ督責ニ苛迫シ一時脱身ヲ圖リ纔ニ火ヲ放チ未^タ燒燬ニ至ラサル者ハ情ヲ量テ三等ヲ減シ懲役三年

費用受寄財産^フ新律綱領

凡他人ヨリ財物畜産ノ寄託ヲ受ケ輒ク費用スル者ハ坐贓ヲ以テ論シ一等ヲ減ス罪徒二年半ニ止ル死失ト詐言スル者ハ窃盜ニ二等ヲ減シ

罪徒三年ニ止ル並ニ物ヲ追レテ主ニ還ス其水
火盜賊ニ費失セラレ及ヒ畜産病死スル者ハ論
スルノ勿レ

筑摩縣同月六日

同縣士族今村麻須美山田多宮桃井保之上
原真名井山田功等罪案畧ノ通ニ詣訪下社
奉仕五官祝ト唱從前何事モ重立取扱來候
處六七箇年以還社中舞家其他頽敗相成候
折柄修覆ノ為先前ヨリ社頭貯蓄ノ金フ以
テ買入置候山林田畠其他所々ヨリ寄進ノ

品等賣拂社費ニ仕向ケ可申告決定致スト
雖モ社中一統ノ公論ヲ不經右等ノ者共限
ニテ取計追々金策モ相整候處戊辰十一月
以還復飾神職ノ者ト座席爭論相發ニ旨以
諸入費相嵩ミ他借等不少ヨリ名ヲ社費ニ
假リ社頭ノ物品等賣拂自費ニ遣拂候次第
共全ク舊諸藩封土私有中減入ヲ以私費ニ
支給致レ候ト同ドリテ事情原諒ス可
キ者ニ有レ之財ヲ以テ罪ヲ擬レ難ク依テ雜

捕律必摺

四編

犯律不應為重キニ問禁錮七十日寃可及處今哉

指令

奉仕ノ社ヘ屬スル所ノ山林及ヒ寄附ノ物品等己レ管守スル所ノモノヲ擅ニ賣却レ私費ニ充ツ其状情ヲ酌量レ費用受寄財產條ニ比照レテ論レ一等赦後ノ首賊二百圓餘坐賊ニ一等ヲ減レ懲役百日閨刑條ニ依リ

禁錮百日 賊金二百五
十七圓餘

今井麻須美

一等赦前後ノ從賊ヘ併スレハ罪輕キニ依リ一ノ首賊ヲ以テ科ス未タ接歴セサル賊金十五圓及ヒ社費ニ充ツルハ餘棄ス以下畧
滋賀縣同六年十二月廿四日
費用受寄財產條他人ヨリ財物畜産ノ寄託受ケ轉ク費用スル者云々トアリ又改定律例客塵倉戸云々其寄托スル所ノ財物ヲ盜ムハ云々トアリ右兩條何レモ人ノ寄託

スル所ノ物ナルニ一ハ費用トモ云ヒ一ハ
盜ムト云フ費用ト盜ムトハ如何ノ區別ニ
候哉

受寄ノ財産ヲ費用シ償還スルヲ能ハサル
者ト雖モ死失ト詐言スルニ非レハ仍未坐
貯ニ一等ヲ減シ費用スル所ノ財産ハ身代
限リ追徴シ本注ニ給シ可然哉 但買取者
アレハ直千ニ追徴シ其價ハ本犯ヨリ償ハ
シメ可然哉

指令

第一條 費用ト盜ムノ區別ハ固ヨリ多辨
ヲ待タス自ラ判然而シテ均レク寄託ノ物
全ニ依リ罪ニ異同アリ客廬倉庫等ノ如キ
銀ヲ取り入ノ財物ヲ預ルナレハ只管大切
ニ取扱フ可キ職業ノ所却テ其人ヲ謙シ
淑レテ償還ノ念ナレ費用ノ如キハ兼テ知悉セ
リ人ヨリ預ル財物ヲ一時融通等ノ為遣ヒ
用ユル者ハ固ヨリ其罪ノ輕重自ラ懸殊セ
リ能ク其情實ヲ酌量シテ各律ニ依ルヘシ
第二條 費用シテ死失ト詐言セサル者ハ

坐賊ニ一等ヲ減シ資物アル限り追徴シテ
詰往ニ給スヘレ但書公商公賈ニ由ラサ
ル者ハ伺ノ通公商公賈ニ由ル者ハ本犯ヨ
リ其價ヲ償ハサレハ直^{タチ}ニ追徴スルヲ得
ス
得遺失物新律綱領
凡遺失ノ物ヲ得レハ必ス官ニ送ルヘシ官物ハ
全ク官ニ入レ私物ハ一半ヲ其主ニ給シ一半ヲ
得ル人ニ給ス如レ三十日内ニ其主ナケレハ全
ク給ス若シ官ニ送ラサル者官物ハ坐賊ヲ以テ

論シ物ヲ追シテ官ニ還ス私物ハ一等ヲ減シ主
アルハ物ヲ追シテ主ニ給シ主ナキハ官ニ入ル
若シ官私地内ニ於テ埋藏ノ物ヲ掘得ル者ハ並
ニ官ニ送リ地主ト申ジセシム隱シテ送ラサル
者ハ主ニ令ツ可キノ數ヲ計ヘ坐賊ヲ以テ論シ
一等ヲ減ス仍水地主ト申セシム
山梨縣伺十七年三月
盜賊逃亡ノ際途中取落品又ハ偽名ヲ唱
へ旅籠屋或ハ茶店等ヘ立寄休憩又ハ止宿
致シ候節惡事發露スヘキヲ悟リ及逃亡候

賊捨置品等ハ賊ノ蹕跡及ヒ事主ノ有無搜索ノ上三十日内ニ本主不相知候ハ、遺失物ヲ以テ論シ拾主又ハ宿主等へ給シ可然哉
湯屋ニ於テ諸人浴場ヘ脱置候衣類紛失致シ候節同所ニ残リ品有レ之賊品ト見込候今二百モ犯人不相知本主無レ之件ハ右同斷衣類紛失セレ者ヘ給シ可然哉

指令

第一條 得遺失物律ニ依テ處分ス可シ

第二條 遺失物ヲ以テ論レ之ヲ浴店ニ給スヘレ

得遺失物條例 改定律例

第二百八十二條 凡水中沈没ノ物ヲ得レハ遺失物ヲ得ルヲ以テ論ス

第二百八十三條 凡遺失物ヲ得ルニ物品盜賊ニ係ルト雖モ私物ナレハ一半ヲ其主ニ給シ一半ヲ得ル人ニ給ス

東京裁判所同十七年五月

自己及ヒ他人所有ヲ今タス其邸宅内ニ於

テ遺失物ヲ得官ニ送ル者物品盜賊ニ係ル
ト否ヲ問ハス主アルハ全ク其主ニ給レ三
十日内ニ主ナケレハ得ル者ニ給スヘキ儀
二候哉
邸宅内ト称スルハ垣牆内亦ハ邸ニ接續ス
夫林圃人類ヲ云フ乎
自己ノ所有地ト雖モ垣牆外ノ田畠或ハ宅
前等ニテ遺失物ヲ得ルハ物品盜賊ニ係ル
ト雖モ改定律例第二百八十三條ニ依リ處
置スヘキ哉

指令

第一條 律例第二百八十三條ニ依リ處分
スヘシ
第二條 墓垣牆内ト云フ林圃ハ垣牆
内外ヲ以テ區々ス
第三條 同外通嚴其外ヘ出入リ同く處分
第二百八十四條 凡官吏遷卒遺失物ヲ得レハ
所部内外ヲ問ハス主アルハ全ク其主ニ還ス
如シ三十日内ニ其主ナケレハ得ル者ニ給ス
東京裁判所同七年五月

村町吏或ハ地守其他看守人等其管守スル所ニテ遺失物ヲ得ル者ハ改定律例第二百八十四條ニ照シ處分スヘキ哉其主ニ指令スヘシ
區長戸長ハ伺ノ通其他ハ凡人ト同ク處今スヘシ

京都府伺二十三日

改定律例得遺失物條中第二百八十四條凡官吏遷卒遺失物ヲ得レハ署内ノ問ハス主アルハ全ク其主ニ還スト有之然ルニ

敎部省敎導職大教正以下訓導試補ニ至ル迄都テ右官吏ト見做シ遺失物ヲ得タル節ハ前條ニ照準シ致處分候テ可然候哉番人ハ民費ノ者ニ付平人ト同様ニテ宜候哉巡邏ノ節捨ヒ得候トキハ如何可取計哉
指令

敎導職大教正以下云々伺ノ通番人ハ官費民費ノ區別ナシ又公私ノ歩行ノ論セス遺失物ヲ得レハ遷卒ト同シク處分ス
第二百八十五條 凡一切撫禁人物ヲ得レハ遺

失及ヒ埋蔵若クハ沈没ヲ分タス一體ニ官ニ

没入ス

第二百八十六條 凡人ノ邸宅内ニ於テ遺失物

ヲ窃取スル者ハ竊盜ニ準シテ論ス入ヘ

違令新律綱領

凡玲ニ違フニ重キ者ハ笞四十輕キ者ハ一等ヲ

減ス

新潟縣同

六年十二月九日

越後國

三島

渡部

勝平

右八別紙罪案畧ノ通墳塚ヲ發掘シテ屍ヲ

郡

興板町

三島

渡部

勝平

残殺スル者ニ似タリト雖モ其情ノ出ル所
真宗火葬ノ舊習ニ拘泥スル者ニテ素ヨリ
惡意アルニ非ス依テ火葬禁止ノ御布告ニ
違フ者ニ論レ違令重ニ擬シ自首スルモノ減
等セサル哉

指令

已ニ埋葬スル父ノ屍ヲ堀發シ更ニ火葬ニ
行フト雖モ舊習ニ泥ムノ廢情ニ出テ別意
アルニ非ルヲ以テ雜犯律違令人重ニ
問ヒ捕ヲ聞テ自首スル者ニ付一等ヲ減シ

懲役三十日贖ヲ聽ス

贖罪金二圓二十五錢 渡部 勝平

朽木裁判所同

六年十月廿八日

縣廳ヨリ往來道橋修繕スヘキノ布令アル
ニ村用掛リノ所存ヲ以テ伍長其他へ差圖
致シ官林ヲ無顧ニテ伐木レ修繕ノ用ニ給
スルノ後仍木餘ス所ノ木材ヲ寧領伍長ノ
所存ニテ隣村其他ノ者ヘ賣却レ代金ハ修
繕中食料諸雜費ニ遣ヒ拂フ者右ハ毀棄器
物稼穡條ニ依リ其賊ハ主廳ヘ賠償セシメ

候哉或ハ盜田野穀麥條ニ依リ竊盜ニ準レ
處斷ス可キ哉

指令

違令重二問ヒ贖ヲ聽ス

違令條例改定律例

第二百八十七條 凡制ニ違フ者ハ懲役百日輕

手者ハ一等ヲ減ス

青森縣同六年十

當縣大屬増田一
充善

右罪案畧ノ通ニ廿一儀名列律斷罪無正條
條中情罪重キ者違制ニ問擬ストアルニヨ
リ重キヲ以テ論レ充善儀其情輕キニ廿不
應為重キヲ以テ論レ兩名共官吏私罪贖罪
表二例ニ照レ可然哉又ハ不應為輕重ニ問ヒ一
ハ重キニ充善ハ輕キヲ以テ論レ贖ヲ聽レ
可然哉

指令

縣廳ノ官吏ヲ黜職スル自己曾テ陳告スル
所ノ意旨ニ違フノ不平心ヨリ他人ヲ煽動

レテ已ニ受ルノ辞令ヲ返上セレメ共ニ
職ヲ辞レテ本廳ノ事務ヲ障碍シ之ヲ要制
セントラ欲レ巡回ノ事務ヲ拠却レテ擅ニ
歸廳シ疾病ト訴稱レテ出仕セス刺へ自己
ニ關セサル官吏ヲ併セテ歸廳セレメ故サ
ラニ公務ヲ辦理セシメサル 雜犯罪律條例
一制ニ違フ者ノ重キニ擬シ懲役百日判任
私罪贖例ニ依リ
贖罪金二十圓 増田 一
自己平生ノ官給下等ナル不平心ヨリ他人

ノ煽動ニ從ヒ已ニ受ルノ辞令ヲ返上レ〔共
ニ以下出仕セス迄同上〕窮ニ慰優ノ再命ア
ラシトヲ冀望スル 同上ノ從ヲ以テ論レ
一等ヲ減レ懲役九十日判任私罪贖例ニ依
リ

贖罪金十八圓

松山 充善

水澤縣同 罪案七年三月

陸前國栗原郡荔敷村農千葉宅三郎供
今儀兼テ天主教信向ノ者ニ候處其教ノ中
ニ載セサル神佛ハ盡ク尊崇ニ及ハサル儀

ト存レ神棚ニ置キ奉リレ樂個ノ伊勢大神
宮ノ御玉串ヲ一束ニ纏メ屋敷ノ裏ヘ投棄
テ次ニ祖先ヨリ雙親ノ位牌迄墓所ヘ捨去
リ候因テ此御吟味入牢中團扇ノ骨ヲ嗤之
筆ヲ製レ天主教ニハ手ヲ加フヘカラス故
ニ外ノ罪ヲ以テ我ヲ刑スヲ及ペン白紙金
十架ノ四品ヲ入レンヲ認メ酒井篤礼ヘ
通信スルヲ囚獄方下使佐藤久太郎ヘ依
托ス追テ謝金可遣ノ約ヲナレ右書狀届ケ
貴ヒ候迄ニテ答報ハ之レ無ク候

指令

伊勢大神宮ノ御玉串及ヒ祖先父母ノ位牌
ヲ投捨スル 雜犯律 違制ノ重ニ問擬レ
懲役百日 千葉宅三郎

監獄中他ニ書信ヲ通スルノ罪ハ未決
中ニ甘ニ罪俱發ヲ以テ論シ輕ニ依リ
論セス

第二百八十八條 凡式ニ違フ者ハ懲役二十日
輕キ者ハ一等ヲ減ス

埼玉縣同六年二月十五日

各府縣ヨリ宿村送ヲ以差立候者御規則通
差添人沿途宿村ヨリ差出候ヘ共已ニ行刑
ヲ經テ無罪ナル者ニハ繩鎖ヲ施シ護衛可
致儀ニモ無レ之候ヘハ差添人ノ簪綬ニ無レ
トモ若レ本人逃亡致レ候ヘハ差添人ノ處
置如何可仕哉素ヨリ護送ノ名義ニモ無レ
儀ニ付無罪ニ候哉萬一罪稍有之儀ニ候ヘ
ハ前條宿村送ノ者假令處刑濟無罪ノ者タ
リ底路中繩鎖ヲ施レ止宿ノ節ハ入圈夫々
縛リ相附逃亡ノ憂無レ之様取計可然哉

指令

罪囚護送ノ如ク嚴鎖ス可キニ非スト雖モ
其逃亡ノ憂ナキヲ要スルハ適宜ニ處不可
レ但本人逃亡スル片ハ差添人違式輕ニ
問ヒ贖ヲ聽ス

京都裁判所同月十四日
賭博申合既三行ハント席ニ坐スル折柄番
人ニ見咎メテ逃去ントレテ其場ニ骨牌
取落ス者アリ賭博遂得サルヲ以テ不應為
輕ニ擬レ實決ス可キ哉

指令

違式輕ニ問ヒ贖罪ヲ聽ス

滋賀縣同月廿三日

今茲ニ甲乙丙丁ノ四人アリ兼テ御布告ノ
旨ニ違ヒ傳染流行病ノ饑牛ヲ甲ヨリ乙ノ
牙保ヲ以テ窮ニ丙ニ代金四圓ニ賣渡シ乙
ヘ金二十五錢世詰料トレテ甲ヨリ差遣レ
丙買取所ノ牛肉骨八肥ニレ皮ハ又丁ニ饑
牛タルノ情ヲ押隱レ代金一圓五十錢ニ賣
渡シ其皮ハ丁ノ所ニ現在ス右甲丙ハ違令

ノ輕ニ擬シエハ從トナシテ一等ヲ減シ丁ハ情ヲ知ラサルヲ以テ無罪ト論レ可然哉而テ其皮ハ犯禁ノ物タルヲ以テ丁ヨリ直ニ追徵官ニ没レ甲乙丙ノ得ル所ノ金モ亦應禁ノ物ヲ販賣レ得ル者ナレハ各官没レ更ニ丙ヨリ丁ニ牛皮代價ヲ償ハシメ可然哉

但已ニ費用スレハ追徵スルニ及ハス候哉

當管内湖中ニ簷ヲ立テ歎リト称レ漁スル

者アリ後水害ヲ釀スラ以テ願者アリト雖モ猥ニ之ヲ免サス若シ免許ヲ與レハ相當ノ税ヲ收ル成規ニ候處動モスレハ公湖ノ漁師等免許ヲ受ケス竊ニ之ヲ設ル者アリ右ハ情ヲ量リ違式ノ輕重ニ問シ仍木其簷竹及ヒ得ル所ノ魚代金モ亦官没シテ可然哉

但シ已ニ費用スル者ハ追徵スルニ及ハス候哉

指令

第一條 甲ヨリ販賣代金四圓及ヒ乙ヨリ
世話料二十五錢ヲ追シ一圓五十錢ヲ丁ニ
給シ剥金ト皮ヲ官没シ情ヲ知テ縛賣カ保
ヲナセシ者ハ違式ノ輕重ニ問ヒ贖ヲ聽ス
但書伺ノ通

第二條 違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス仍木賣竹
ハ官沒ス 但書伺ノ通

山梨裁判所伺六年十二月廿四日

博戯ヲ為サント骨牌並ニ金錢等マテ取出
レ既ニ手合ニ及ハントスルノ際捕縛ニ就

キ候者ハ賭博ヲ為ス者ト同罪ニ候哉
改定律例二百七十一條ニ博戯ニ用ユル撥
子骨牌ヲ賣ル者賭博者ト同罪ト有レ之金錢
ヲ賭ケ博戯ヲ為レタメ骨牌等所持スル者
モ同罪ニ候哉

指令

第一二條 違式重懲役二十日贖ヲ聽ス
愛知縣伺七年二月五日

賭博ヲ喫店ニナス者アリ店主其博徒タル
ヲ知ラス止宿セシメテ後始テ之ヲ知ルト

雖モ情ニ漏レテ敢テ之ヲ制止セサルノミ
固ヨリ其列ニ與ルニ非ス又為メニ金ヲ受
ケサルハ其罪不應為ノ輕ニ問ヒ贖ヲ聽シ
テ可ナラン乎將タ違令輕ヲ以テ之ヲ論ス
ルヤ

指令

違式輕ニ問ヒ贖ヲ聽ス

愛知縣同廿七年四月

復籍人原籍ヘ遞送ノ中路誤テ遁逃セシム
ル押解人處分ノ儀相伺候處違式輕ニ擬シ

懲役十日贖ヲ聽スト明治六年八月中御指
令有之然ルニ添書并旅費牒等押解人ノ不
束ヲ以テ本人ニ所持為致候迄逃走セシメ
或ハ本人ニ異條無之ト雖モ押解人誤テ前
顯ノ書類ヲ遺失スルカ如キ其遺失スルノ
添書ハ既ニ縣令ノ印アリ依テ之ヲ職制律
棄毀官文書ノ條ニ照シ縣ノ文書ヲ以テ論
スル時ハ復籍人ヲ逃走セシムルノ律ト其
權衡平カナテサルニ似タリ故ニ其遺失ノ
書類ハ餘人文書ヲ以テ論シ懲役二十日贖

ヲ聴シ其本人ニ紙レテ所持ノ後逃走セシ
ムルモ自ラ遺失スルト同シク其罪ヲ科シ
候テ可然哉

指令

傷害人ニ添書旅費牒等ヲ所持セシメ逃走
スルヲ覺サル者違式重ニ問ヒ自ラ遺失
スル者ハ縣ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論ス
可レ

不應為新律綱領

凡律令ニ正條ナシト雖モ情理ニ於テ為スヲ得

ヘカラサルノ事ヲ為ス者ハ笞三十事理重キ者
ハ杖七十

東京裁判所同

罪案六年
節錄九月

東京府士族篠崎正志曰私儀工林豊吉ヘ貸
金アリ嚴重催促セシ所同人娘鈴ラ妾奉公
ニ入レ給金ヲ以テ返済スト申ニ付箋ト勘
考スルニ彼ハ多借ノ身特リ我ニ耳返辨モ
六ヶ敷ト察レ本貸金三十五圓ヘ四十圓増
金シ壬申十一月鈴ヲ引取候尤御訓禁ヲ懼
レ表ハ私妾ノ名義一年七十五圓ノ給金ニ

證文ヲ認サセ私方ヨリ他人ヘ妾ニ遣ハレ
其給料ヲ以テ貸金ヲ償ハセント一月金七
圓又ハ五六圓宛ニテ諸所ヘ妾ニ遣ハシ或
ハ自宅ヘ客ヲ延カセ候

指令

貸金ノ方ニ人ノ女ヲ引取り豫メ罪ヲ逃レ
シテ謀テ偽證書ヲ製シ又妾ニ出シテ其
月給ヲ取メ或ハ金ヲ取テ客ヲ自宅ニ迎ヘ
レムルヲ以テ 雜犯律 不應為重ニ擬シ
破廉耻ニ以テ論シ

除族

篠崎 正志

大坂裁判所同六年十月

別紙罪案畧ノ通坪内長蔵固ヨリ有心故犯
ノ者ニ無之候ヘ共全ク其不注意ヨリ斯変
害ヲ生シ多誨ヲ斃スニ立至リ候ヘハ疎失
ノ罪免カレ難ク因テ本犯ハ不應為重ニ問
ヒ黒川善右衛門ハ一等ヲ減シ各贖罪ヲ聽
シ仍木長蔵ニ著シ雇以テ除クノ外近傍ニ
在テ死傷スル者ハ醫藥埋葬ノ資料ヲ延給
シ及ヒ破損ノ船隻家屋賠補セレメ可然哉

指令

數十萬ノ彈藥一時ニ暴發シテ人ヲ殺傷スルハ過失ヲ以テ
家屋船隻ヲ焼燬スルニ至ル其初火ノ原因
何レニ出ル力審力ナラスト雖モ畢竟其変
尤戒心ス可キノ物ヲ老少詫ス可カラサル
ノ人ニ託スルニ由ルヲ以テ雜犯律不
應為ノ重キニ擬シ全く其不法事
懲役七十日並其内身障坪内長蔵
同上ノ役トナシテ論リ一等ヲ減シ

同 六十日

黒川善右衛門

弾薬暴發シテ人ヲ殺傷スルハ過失ヲ以テ
論セス依テ醫藥埋葬ノ資ヲ追給シ及ヒ破
損ノ船隻家屋賠補セシムル等ノ儀ニ及ハ
ス

潤ノ三浦縣同六年十月

筑後國三浦郡原古賀町

無量寺住職原祥晉子平

外五人

鳳俊

右罪案畧ノ通改定律例第二百六條ニ照レ
處斷可申付哉然ルニ他所ニ移シ死ニ至ル
ニ付如何可申付哉

指令

狂癲ノ婦人境內ニ來リ乱暴ヲナシ近隣為
メニ安附スル能ハサルヲ以テ已ムヲ得ス
之ヲ他所ニ荷ヒ行キ放チ帰ルノ後婦人自
ラ水ニ落チ溺死ス 雜犯律 不應為輕ニ
問シ懲役三十日其懲ヲ量リ贖ヲ聽ス
贖罪金二圓二十五錢宛平 鳳俊

同上夥伴ノ訊証セラル、貪ヲ聞キ追蹤スル
者名例律 官ノ捕獲セントスルヲ聞キ

自首スル者ヲ以テ論レ一等ヲ減シ贖ヲ聽

ス

贖罪金二圓二十五錢宛今泉 儀助

同以下畠近藤房次郎

濱田縣伺 六年十一月十三日

田畠ヲ損害スル獸類ノ巣窟ヲ滅絶セシメ
ント欲レテ人ノ山林ニ放火スル首放火條
例田塲積聚ノ物ヲ焼クニ一等ヲ減シ

同懲役五年 石見國近摩郡 天河内村農大原伊平

同上後タルヲ以テ一等ヲ減レ

同三年

長男山本

友吉

外六人

同上後ニレテ身隨ク行ハサル者又一等ヲ
減レ

同二年半

長男農直助

清水

貞助

右罪案畧相添此段相伺申候也

指令

田畠ノ損害スル獸類ノ巣窟ヲ滅絶セント

シ火ヲ放ツ烈風ニ會シ終ニ人ノ山林ヲ

延焼スルニ至ルト雖モ其事全ノ獸害ヲ除
カントスルニ出ルヲ以テ田塲積聚ノ物ヲ
焼却ノ社ニ非ス依テ雜犯律ノ宋應為ノ
重キニ疑シ懲役七十五日情ヲ量リ贖ヲ聽ス
贖罪金五圓二十五錢 大原 伊平
可燒ク所ノ物ハ贖可レ
同上後タルヲ以テ一等ヲ減レ懲役六十日
贖ヲ聽ス
贖罪金四圓五十錢 宛 山本 友吉

燒ク所ノ物ハ賠償セシムベニ
獸害ヲ除ケン爲メ其巣窟ヲ滅絶セトス
ルノ議ニ與ルト雖モ身同ク行ハサル者其
罪ヲ問ハス

無罪

清水貞助

長野縣同

甲斐國八代
郡中川村農中川耕次郎

右罪案畧ノ通元來同連市郎次ノ病苦ノ救
ハント所持ノモルヒネヲ與フルノ後チ同
人死ニ至ルト雖モ其死ニ於ルヤモルヒネ

ノ爲カ又ハ發病ノ爲カ當時醫ノ診察モナ
ク今日ニ至テ確然タル明證アルニ非ス去
ナカラ右体ノ割藥ヲ容易ニ與フル者ニ甘
雜犯律不應爲ノ重キニ擬シ懲役七十日事
情憫諒ス可キニ依リ贖罪金五圓二十五錢
可申付哉

指令

人ノ病苦ヲ救ハントモルヒネヲ與フル後
病愈エス却テ死ニ至ル其病因知ル可ラス
ト雖モ容易ニ劇剤ヲ與フルヲ以テ雜犯

律不應為重二間ヒ懲役七十日情ヲ量リ
贖ヲ聽ス

贖罪金五圓二十五錢 中川耕次郎

和歌山縣同

罪案六年十二月九日

紀伊國牟婁郡田邊榮町商小倉庄作曰同町
捕亡吏下使丸山春吉他行セレ故當十月廿
六日夜苗守見舞ニ罷越シ其妻マツト火燄
ニ暖リ雜話ノ末將ニ帰宅セレトスル節同
人裸体ニテ火燄ニ卧セレニ心動キ色欲止
ミ難ク戀情申掛け終ニ同卧シ始ト落湯ニ

及フ場合春吉ノ同僚等ニ見咎メラレ候
指令

有夫ノ婦ニ戀慕ノ情ヲ通シ姦セントスル
ノ際他人ニ撞見セラレ事ヲ遂ケスト雖モ
事理為スヘカラサルヲ以テ雜犯律不
應為重キニ礙レ

懲役七十日

小倉庄作

小倉庄作ト同ク擬シ懲役七十日收贖ヲ聽

收贖金一圓七十五錢

三十九

滿津

墻玉裁判所同

六年十二月十五日

武藏國墻玉郡上条村農助右衛門仲 高橋 良八

右罪案署之通ニテ偽幣タルヲ知テ買使レバ諸
ノ指使レバ受ケ接遞スル者改定律例第二百
四十九條情ヲ知テ買使者ノ従レバ以テ論シ
一等ヲ減シ懲役十年可申付哉

指令

彼此ハ間ニ周旋セラフテ偽札賣買ハ接遞ヲ為
スニ更ニ謝金ヲ受ス雇人雜役二供スル者
ニ擬スレハ法ハ猶過酷ナルヲ覺ニ依テ不

應為重キニ問ヒ

懲役七十日

高橋 良八

愛知縣同六月二十日

獄監曾カツテ無籍ト詐言シ處斷シテ後授產場ニ
入レ使役シテ紳守カシムノ隙ヲ窺ヒ懲治檻ヲ脱走
シ捕ハシメニ就キ之ヲ繩問スルニ網里カサリノ幕フノ
情勘ナルヨリ起り始其源籍ヲ隱匿スルハ
他ナシ唯犯罪ハシメノ炳名ヲ耻チ親戚隣保ニ對
スルノ面目ナキヲ以テ詐偽スルノミ如何
處今可然哉

指令

不應為ノ輕キニ問ヒ懲役三十日但投
場ヲ逃走スル罪輕シ論セス
鳥取縣同罪案六年十二月廿四日
因幡國邑美郡吉方村医堀田正澄曰私儀種
痘ヲ遣ヒ盡レ求メ方ニ差支ヘ一策ヲ設ケ
吉田萬藏平内興一郎ヲ頼ミ私ニ男ヲ他人
ノ子ト偽ラセ同業景山胖ニ種痘致サセ其
苗ヲ奪取施行仕候

指令

其痘苗ヲ採テ他ノ兒ニ施種セント欲レ已
レカ兒ニ他ノ名籍ヲ詐冒レ同業ノ者ヲ欺
テ種痘セシムル者雜犯律不應為輕ニ
科シ懲役三十日情ヲ量テ贖ヲ聽ス
贖罪金二圓二十五錢堀田正澄
堀田正澄ノ從トナシ一等ヲ減シ懲役二十
日贖ヲ聽ス
同罪一圓五十錢宛吉田萬造
京都裁判所同六月廿七日

生業等ノ為ニ授產場ヘ入置クニ擅ニ内柵ト越工同レ入場ノ婦女ト屢通姦スル者アリ其罪不應為ヲ以テ科ス可ク候ヘ共輕重何ニ従ヒ允當可致哉且其婦女モ同罪収贖シ可然力將ク通常ノ姦律廢スト雖モ私娼ノ婦女實斷ノ御指令アルニ付如此者ハ仍木實斷ス可キ哉

對指令
不應為輕ニ問ヒ贖罪収贖ニ處ス但私娼街賣ノ婦女ハ從前實斷三處スルノ所自今

改テ收贖ヲ聽ス
朴度會縣同罪案六年十二月廿七日
伊勢國度會郡山田船江町工玉木長蔵等曰
ク私共近頃誰云フトナキ風説ニ皇大神宮
ノ大麻ヲ水ニ投レ候ヘハ人馬等ノ形ヲ頭
レ其頭ハル、人畜ニ疫癟ヲ傳染セレメ候
ナト、無根人異説ニ取惑ヒ一時ノ災難ヲ
マヌカレ度キ愚意ヨリ至尊ノ大麻ヲ流却
致シ候
指令不應為輕ニ問ヒ贖罪収贖ニ處ス但私娼

雜犯律 不應為輕 二問擬シ懲役三十日無根ノ流言ヲ信用スル蠹愚ノ情状憫諒ス可キヲ以テ贖ヲ聽ス

贖罪金二圓二十五錢宛玉木長藏

其服外十一人

敦賀縣同 罪案七年四月

越前國今立郡岩本村医山田常平供 自今儀同医業黒田良齋方へ罷越候處同業今村仲造外二人居合セ右良齋近頃買入候逆人

骨ヲ論シタル畫圖ヲ見セ候ニ付此上ハ現

物ト比較レ試檢致シ度ト談合ノ未幸ヒ近村ニテ先頃非人ノ斃死ヲ假想セレ由右ヲ發掘研究スヘシト私發言ニ孰レモ同意シ談林月行司自崎庄平方へ行キ右事情ヲ告ケ一覽ヲ乞ヒ同人諭諾セレ故死屍ヲ掘出セシ所最早鏽爛ニ及ヒ候ヘ共聊皮肉僅チ居ル個所モ有之ニ付悉ク梳キ去ント存レ私方ヘ持帰リ桶ニ浸シ置ト雖モ容易ニ梳キ取レサルヲ以テ蔬包ニ致シ流水へ漬置候ヘハ可然ト協議ノ上水中へ沈メ置キ候

指令

倒死ニ係リ已ニ埋葬スル屍ヲ医業研究ノ
為メ骨體試檢セント欲シ發掘レテ水中ニ
浸漬スル者雜犯律不應為ノ重キヲ以
テ論シ懲役七十日贖ヲ聽ス
贖罪金五圓二十五錢 山田 常平
山田常平ノ従ヲ以テ論シ懲役六十日贖ヲ
聽ス

贖罪金四圓五十錢完

黒田 良齋

外三人

東京裁判所同罪案七年六月二日

東京櫻田町商高久巳之助供 亡高久岩吉
親屬一同相談ノ上私ヲ其妻サトノ入夫ト
定メ生國ヨリ送籍到米次第其筋ヘ届出ヘ
キ含ニテサト俱々相暮ス所同人怠惰ノ性
贛ニ付活計ノ目途無之ヲ以テ屢々教諭ス
レトモ採リ用ヒサル故今一層訓戒セント
欲シ弥不勉励ナレハ離別シテ舊里ニ立帰
ル旨申聞ケ置レ其翌夜サト私ノ枕邊ヘ庖
丁ヲ携ヒ來リ舊里ヘ立帰ルヲ實事ナレハ

自害スト申ニ付全ク決心ノ旨答ヘン所同
人右刃物ヲ咽喉ヘ突立テ倒レシ故打驚キ
急ニ刃物ヲ拔取候ヘハ苦痛ニ堪サル逆懲
ニ介錯ヲ乞フニ付不便トハ存スレ氏不得
已其意ニ伍セ其庖丁ヲ以テ背等ヘ突立シ
所絶命ス就テハ後日ノ罪逃レ難クト存シ
私モ右庖丁ニテ腹部ニ箇所ヘ突立シ節想
身震栗シ終ニ割腹仕損レ候

指令

妻懲識ノ為メニ離別ヲ唱ヘラルヽノ意ヲ

知ラス怨悲シテ自殺セント告ルヲ阻抑ヒ
ス其喉ヲ刺スニ及レテ救助セント欲スレ
トモ妻却テ速死ヲ促レ苦痛ヲ脱セントヲ
乞フニヨリ之ヲ殺死ス其事情原諒入ヘキ
ニヨリ不應為條不應為輕ニ問ヒ懲役
三十日贖ヲ聽ス

贖罪金二圓二十五錢 高久巳之助

扶桑三重縣同

七年六

月七日 伊賀國伊賀郡猪田村農堀川弥五七

右ハ罪案ノ通妻キンノク縊殺スト雖モ

其情状故殺^テ以テ論シ難ク將^ク誤殺^{トモ}
見做^シ難^シ因^テ改定律例二百二十三條凡
夫妻ヲ毆^チ死ニ至ルト云フ^ヲ以テ論シ懲
役終身可申付哉

指令

誤犯ノ妻傲慢放恣曾^テ夫ノ言ニ聴從^{ヒス}
即時離別セシムヲ迫リ且ツ暴戾^{バウリ}自^ラ死セ
ントレ夫ノ帶ヲ取り己ノ頸ニ巻キ強^キテ之
ヲ牽カレム事機已ムヲ得ス其言ニ従フヨ
リ遂ニ縊死ニ至ルト雖モ其死十妻ノ自ラ

取ル所ニシテ妻ヲ毆^チ故殺死スル者三問^{モシヤ}
スヘカラス止夕燈時已ムヲ得サルノ勢ニ
出ルト雖モ輒^ク其言ニ従フヲ以テ不應
為條不應為重ニ問ヒ

懲役七十日

堀川弥五七

兵庫裁判所伺

十三年七月

甲乙ノ賊俱ニ窃盜ヲ為サント謀リ甲ノ指
誘ニ後ヒ犯所ニ至ル家内人聲アルニ驚キ
行ヒ得スレテ去ル乙犯所ニ至ルノ際又ハ
日後常ニ刀ヲ帶フ然レ正絶^テ強盜ノ跡ナ

レ後チ縛レテ之ヲ審スルニ拒捕ノ為メ刀
ヲ帶スト凜然ス如此ハ情ヲ量リ不應為輕
重ニ問ヒ本罪加等ノ例ニ非ザル哉

指令

不應為重ニ問フ

福岡縣同二十七年八月

凡捕吏差遣ヲ承ケ罪因追捕スルニ囚已ニ
拘執ニ就クト雖モ犯状首白セス依テ之ヲ
詰問セント手足槌棒等ヲ以テ毆訊シ其傷
折傷以上ニ至ラサル者如何處置可然哉

指令

情ヲ量リ不應為輕重ニ問フ

不應為條例改定律例

第二百八十九條 凡二人以上同ク不應為之犯
レ首タル者懲役三十日ニ訛レハ後ハ懲役二
十日首タル者懲役七十日ニ訛レハ後ハ懲役
六十日ニ科ス若レ所犯輕重ノ分アレハ不應
為輕重ニ分類レ首役ヲ以テ論セス

第二百九十九條 凡佛像ヲ棄毀スル者ハ不應為

重ニ科ス

第二百九十一條 凡詭言怪説ヲ流傳シ及ヒ著述レテ政體ヲ妨害スル者ハ不應為重ニ科ス

三重縣同罪案七年

同縣土族龍崎潛供 本年一月ヨリ同郡東
十 茂野村小學校教師ニ雇ヘレ教授外暇新聞
志ヲ閲レ舊參議及ヒ諸人ノ論辨ヲ信レ政
事實上躉モ見聞セス特ニ新聞中ニ就キ
妄ニ即今ノ政事ヲ想像レ前段諸人ノ論意
ヲ參照レ一篇ノ文ヲ綴リ二月中旬眞事誌
社中ヘ投書ス文中間マ大姫小姫或ハ政府

反省云々ト過激狂暴ノ字句ヲ用ヒシハ全
ク一時ノ想像ニ出テ同志ノ者無之ハ勿論
一身上ニ於テモ聊實著ノ心意ハ決メ無之
今般御詰問ニ預リ一言ノ申開キ無之候
指令

一己ノ想像ヲ以テ妄ニ政府ヲ非議レ新聞
誌ニ投書スル者改定律例第二百九十一條
凡詭言怪説ヲ流傳シ及ヒ著述レテ政體ヲ
妨害スル者ニ擬シ不應為重ニ問ヒ士族タ
ルヲ以テ閨刑ニ換ヘ

禁獄七十日

龍崎

賛

擬律必携四編上終

今
殊
奇
精
明
一
卷
上
二
編
上
終

